



TAKING OFF

大阪学院大学/大阪学院大学短期大学部
国際センター ニュースレター

Vol. 26 Fall, 2015



1. Hello from All Corners of the World!

今回紹介するのはアメリカのConcordia Universityの大学院に在学中の比嘉 春菜さんです。OGU在学時代にアメリカ・ミネソタ州にあるセント・トーマス大学で交換留学をしました。この留学をきっかけにアメリカの魅力に引き込まれた彼女が、帰国後さらにアメリカで学びたいという熱い思いから、夢を叶えるために必死になっていた姿は今でも強く印象に残っています。今、大学院生活も終盤を迎え、さらなる夢に向かって一步一步力強く進んでいる姿が目に見えます。

比嘉 春菜 (2013年外国語学部卒業)

留学は私の幼い頃からの夢で、OGU在学中セント・トーマス大学で交換留学をしました。この留学を通して視野が広がったのはもちろんですが、英語が上達したことにより、ネットワークの輪が広がりました。また、私の中の「世界」に対する考え方や見方が180度変わり、OGUを卒業する頃には、大学入学前の私からは想像もつかなかった目標を持つようになっていました。それは、アメリカという異文化社会の中で国際開発学を学び、国籍・宗教・人種・民族間の争いをなくすということでした。また、それまで女性、若い、沖縄出身ということで偏見を持たれることが多々あったので、もっと自分で何かをする力や発信力を持ちたいと思い、アメリカの大学院で修士号を取る決意をしました。

それからは、留学資金を確保するために、様々な奨学金の試験を受けると同時に、TOEFLの勉強は毎日最低3時間、バイトがない日は10時間以上しました。大学3年次の頃から準備を始めて約1年半後、ロータリークラブと沖縄県の2つの奨学金を受給し、オレゴン州のConcordia University(コンコルディア大学)の大学院のInternational Development and Service Program(国際開発と奉仕学プログラム)で学ぶことになりました。

アメリカの大学院で勉強するという夢は叶ったものの、大学院の授業は想像以上大変でした。クラスメートは全員英語のネイティブ。授業についていくのがやっとで、週の半分以上は泣きながら家に帰る日々が続きました。宿題の量も考えられないくらい多く、初めは眠る暇も食べる暇もなく、また吐いても熱が出て、授業を休むことができませんでした。体重も激減し、教授たちに何度も留年することを勧められましたが、奨学金を打ち切られる可能性があったため、絶対に留年するこ



イタリア留学中にクラスメートたちと(本人左端)

とはできませんでした。こうして毎日必死でやっているうちに、あっという間に1学期が終わり、その後も何とか留年することなくここまで来ることができ、8月から大学院の最終学期が始まりました。

また、私が在籍しているプログラムは1年間の海外留学が必須で、私はイタリアとエクアドルに留学をし、さらにこれまで以上に世界に対する視野が広がりました。この留学で、サッカーを通してコミュニティ開発に貢献することに関心を持つようになりました。今は、サッカーがどのようにエクアドルのコミュニティ開発に役立つかをテーマに修士論文に取り組んでいます。また、留学先からアメリカに戻った後は、アディダスがサポートしているサッカーを通して貧困層・難民の方たちのコミュニティ開発に貢献しているNGO団体でインターンシップもしています。

最後に、ここまで来られたのも、大学時代に交換留学に行ったからです。あそこから全てが始まりました。最初の一步を踏み出すきっかけをくれたOGUには感謝しています。これからも夢に向かって頑張っていきます。



エクアドル留学中に現地の民族衣装を着て

目次:

Hello from All Corners of the World! 1

Let's Ask OGU Students! 2-3

シェアハウス紹介 4

四方山話 (1) 4



2. Let's Ask OGU Students!

今回は初の企画として、在学生に留学に関してインタビューしました。一人目は現在カリフォルニア州立大学モンテレーベイ校に交換留学中の原 克典君で、留学に出発する前に話を聞きました。二人目は2年次で台湾の静宜大学に交換留学し、帰国後に休学して日本と台湾を行き来しながら中国語や現地の文化を学んだ横山 零君です。二人とも入学前から留学を目指していましたが、入学後も地道な努力を積み重ねてその目標を達成しました。精神一到何事か成らざらん。心を定めて努力すれば夢は実現することを教えてくださいます。

原 克典 (外国語学部2年次生)

2014年4月 OGU入学、LEI (語学教育研究所) 第1期生

2014年9月 CETルームシェア秋学期参加

2015年6月 CETルームシェア夏学期参加

2015年8月 カリフォルニア州立大学モンテレーベイ校に交換留学 (2016年5月まで)



交換留学生たちと(本人中央)

留学を目指したきっかけは何ですか？

中学生の時にアメリカのプロレスに興味をもったのがきっかけです。それから英語の勉強を始めましたが、中学、高校時代はバスケットボール部に所属していたため、あまり勉強には熱心ではありませんでした。その後、高校3年生で外国語学部を中心に進学先を調べ、昨年新設されたLEIと提携大学の多さからOGUを選びました。そのため、大学に入学した時から留学を目指していました。

入学してLEIの第1期生に選ばれましたが、LEIではどのように授業が進められましたか？

LEIの授業は、英語を日本語に翻訳するという従来の英語授業ではありませんでした。例えば、リーディングの授業では、本を1冊読んでそれについてプレゼンをしたり、ライティングの授業では、留学申請のためのエッセーの書き方を学んだりしました。Cross-Cultural Communicationという授業では、スピーキングに重点を置いて、プレゼンやグループワークもしました。また、学期中に何度かCETの留学生たちとの合同授業があり、異性関係、仕事への姿勢など、様々なトピックについて、日本語と英語でディスカッションをしました。日本語をほとんど使わないプログラムなので、1年でリスニング力が大幅にアップしました。

英語力向上はどの学生にとっても課題だと思うのですが、どのようなやり方で勉強をしましたか？

入学後、最初に受験したTOEICが360点で、自分が希望していた留学先の語学基準よりはるかに低く、これでは留学が実現できないと思い、一念発起しました。大学の行き帰りは、TOEICのリスニング問題を聞き、家に帰ると常時字幕付きの洋画を流して、英語の聞き取り練習をしました。またHarry Potterの本を1日20ページぐらいのペースで読みました。これを毎日続けました。正直言うとTOEICの過去問題は、試験の直前にしかしませんでした。夏休み明けにはTOEICが510点になり、11月には目標にしていた590点にまで上がりました。毎日続けたことが結果につながったと思います。

なぜそこまでがんばり続けることができたのですか？

大学に入学した時の目標が、「暇な時間を作らない」でした。先日、1年間のスケジュール帳を見たら、入学から今年の5月まで何も入っていない日は一日もありませんでした。勉強も遊びも一生懸命した1年だったように思います。高校生の時に、バスケットボール部に所属していましたが、適当に手を抜いていたところもあって、それを後悔したという経験があったので、同じ後悔はしたくないと思っていました。大学生活では何事も悔いのないように取り組むことが自分の目標です。

話を聞いているととても忍耐強いと感じるのですが、それはどこで身につけたのですか？

小2から小6まで軟式の少年野球チームに所属していました。本当に練習が厳しく、監督も手加減なく厳しかったです。それでも辞めずに最後までやったことが、今日の自分につながっていると思います。そのチームの監督はこれまでの人生で一番影響を受けた人で、今でも交流があります。また、このチームは歴

史があり、上下関係も非常に厳しく、OBや後輩とは年齢を超えて付き合う必要がありました。そのため、野球だけでなく、コミュニケーションの仕方、挨拶の仕方も学びましたし、知らない人とも物怖じしないで話をする積極性も身につけることができました。忍耐力のみならず、そこで学んだことが、今の自分につながっていると思います。

留学に向けてどのような準備をしていますか？

現地でやるTo Doリストを作っています。思いついたら、その都度それをリストに加えています。勉強に関することだけでなく、ホームステイをするだとか、年末にニューヨークのタイムズスクエアでカウントダウンするとか、リストには色々なことが含まれています。リストに書いたことを一つでも多く実行できるようにがんばりたいと思っています。

留学の次の目標は何ですか？

以前はアメリカでプロレスのライターになることしか考えていませんでしたが、今は他にもやりたいことが出てきたので、留学中に自分が将来何をしたいのか明確にしたいと思っています。気持ちが高まったら、そこから次のステップを考えるつもりです。

最後に留学を目指している学生たちへのメッセージをお願いします。

もっと早く始めれば良かったと思うことがあったので、思い立ったらすぐに実行に移すことをお勧めします。また、辛くても諦めずに、やり続けることが大切だと実感しています。帰国したら、自分の留学経験をみなさんと共有しますので、楽しみにしてください。



LEI第1期生(前列中央:ミンナ・キルヤヴァイネン准教授、後列左から6人日本人)



横山 零（国際学部4年次生）

2012年9月～2013年6月 静宜大学（台湾）に交換留学

2014年4月～2015年3月 OGUを休学し、日本と台湾を行き来しながら地元へ溶け込んで語学習得。

2015年4月 OGU復学



台湾に興味を持ったきっかけは何ですか？

台湾のバラエティ番組を見たのがきっかけです。台湾ドラマブームの影響で台湾に興味を持ち、ネットで色々調べていたらバラエティ番組が出てきて見始めました。もちろん内容は良くわかりませんでしたが、何か惹かれるものがありました。また、中学生の時に、父の取引先の台湾人の方と知り合いになり、さらにそれが台湾への興味を強くしました。その方は非常に日本語が堪能だったので、自分もいつかその人と中国語で話しかけるようになりたいと思いました。また、いつか台湾に留学に行きたいと思っていたので、交換留学奨励金と台湾の提携大学があるOGUに進学しました。

中国語を習得するために留学先でどのような取り組みをしましたか？

台湾に行く前はほとんど中国語を勉強していませんでした。最初は台湾人の学生や他の国からの留学生たちと英語でコミュニケーションを取りました。高校時代に面白い英語の先生に出会い、一生懸命英語の勉強をしていたことが役立ちました。しかし、プレースメントテストの結果、なぜか中級の中国語クラスに入ってしまった。最初はわからないことだらけで大変でしたが、他の学生に負けるのがいやで必死で勉強しました。日本人のクラスメートにも助けってもらいましたが、助けてもらわなくてもできるようになりたいととにかく毎日必死でした。幸いにもやっているうちにいけるようになり、勉強が面白いと思えるようになりました。また、日本語学科の授業を履修した時に、日本語が全く話せないクラスメートと同じグループになり、その学生と仲良くなったので、中国語を使いながら一緒に勉強したり、遊んだりする機会が増えました。できるだけ中国語を使う機会を増やすように努力した結果、交換留学から帰国後に中国語検定2級に合格し、また今では中国語でコ

ミュニケーションを取るのに困らないぐらいのレベルになりました。

台湾に心を奪われた感じがしますが、台湾の魅力を教えてください。

とにかく人が魅力的です。台湾は小さな島国のせいか、外国人に対して非常に友好的です。友達の家に呼ばれることもしばしばで、そこから人脈が広がります。私が留学中も現地の友達の家に招待され、家庭生活を体験することができました。次に語学面での利点です。英語圏に行ったら英語しか習得できないケースがほとんどですが、台湾人は英語が上手いので、中国語がわからなければ英語で話してくれます。留学中に会った学生たちを見ても、彼らのほとんどが流暢に英語を話します。また、英語で開講されている授業のレベルも高いです。台湾に留学すると、中国語の授業を学びながら、英語も勉強できるので一石二鳥です。

休学してまで台湾に行った理由は何ですか？

留学中は大学の授業があったので、やりたかったことがすべてできたわけではありませんでした。そのため、もっと現地に溶け込みたいという気持ちがあり、休学中はバイトをしては1ヶ月ぐらい台湾に滞在するというのを2、3回繰り返しました。行く度に友達と交流しましたが、一番頑張ったのは、友達のお母さんが台湾語しか話せなかったため、がんばって台湾語の練習をし、最後にはお母さんと話せるようになったことです。休学中の最後にぐっと中国語会話力が向上したような気がします。

英語圏への留学を目指す学生たちが多くですが、台湾に行ったらよかったと思うことは何ですか？

まずは何より中国語が習得できたことです。そして、現地の友人ができたことでしょうか。さらにそこからネットワークの輪が広がり、紹介されなければ絶対に知り合うことがなかったであろう人たちと知り合いになりました。思い出深いのは、友達の親戚のところに2週間ぐらいホームステイし、その家族の方たちが日本のことに興味を持ってくれたことです。またそれを通して自分がいかに日本のことを知らないかということに気づけたことが良かったです。

留学に一步踏み出す学生がまだまだ少ないように思いますが、他の学生に留学を勧める理由は何ですか？

外国を知らない人が多いように思うので、



台湾留学時代の友人と(本人左)

もっと視野を広げた方がよいと思います。日本にいたら日本人の考え方だけにとどまってしまうですが、海外に行けば面白いことがたくさんあります。自分が現地の言語を全く話せない国に行って、自力でどうにかしてみるのは、体験として面白いと思います。例えば、韓国は隣の国なのに日本とは違うところがたくさんあります。人の考え方や性質も違います。私も実際に韓国に行ってみて、韓国人と台湾人の違いも感じました。ボディランゲージと英語でコミュニケーションを取りましたが、言葉のわからない環境に身を置くという経験は、色々な面で役立つと思います。

最後に留学を目指している学生たちへのメッセージをお願いします。

私は後悔していることが一つだけあります。それは台湾で英語の授業を履修しなかったことです。これから台湾に留学する人は、必ずそれをしてほしいです。中国語が話せても、やはり英語が使えることが一番です。というのも、英語ができれば誰とでも話ができます。英語圏への留学に拘る必要はないと思いますが、どこに留学しても英語が世界の共通言語だという認識を持って、留学生活を送ってください。



台湾留学時代に友人たちと(本人前列左から4人目)



3. シェアハウス紹介

「シェアハウス」とは一戸建てを複数人で共有「シェア」するスタイルのハウジングです。ベッドルームのみが住人個々人のプライベート空間で、その他キッチン、リビング、浴室やトイレ等は他の住人とシェアをします。月単位の賃貸契約が可能な場合が多く、かつ様々な所属の人と知り合うことができることから、近年シェアハウスの需要が高まり、関西でもその数が増えつつあります。

これまで国際センターでは、国際交流プログラムに参加する海外からの外国人留学生に対して、ホームステイと大学が契約したアパートをハウジングとして提供してきました。しかし、昨今の外国人留学生のハウジングに対する希望の多様化に伴い、昨年度からは本学近くにあるシェアハウスの紹介も始めました。

今回は、国際センターが紹介したシェアハウスに2学期間滞在した交換留学生のParkpoom Silpasophon 君（タイ・バンコク大学）に、シェアハウスでの経験を語ってもらいました。

Parkpoom Silpasophon (タイ・バンコク大学)

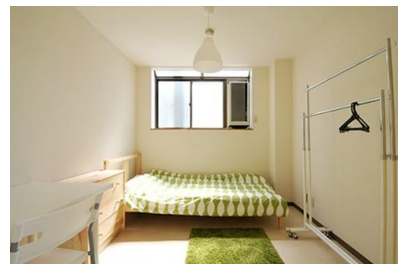


シェアハウスのシェアメイトたちと
(本人後列右端)

毎週末一緒に過ごしました。

シェアハウスでの一番の思い出は、私の誕生日です。その日は私がシェアメイト達のためにタイ料理(トムヤンクン、マッサマンカレーとタイグリーンカレー)を作りました。私と知り合ったことで、みんながタイに興味を持ってくれていたの、楽しく食事をしながらタイについて色々話をしました。そして食事の後、彼らが私のためにサプライズのバースデーケーキを用意し、「ハッピーバースデー」を歌ってくれたのです！今までこうした経験をしたことがなかったので、とてもびっくりしましたが、非常に嬉しかったです。日本で最高の誕生日を祝うことができました。

また、シェアハウスでは、シェアメイト達がいつも私を助けてくれました。例えば、私がラウンジで日本語の宿題をしているのを見ると、わざわざ時間を作って日本語を教えてくださいましたし、日本語で「今日はどうだった？」などよく声をかけてくれました。私にとって彼らは第2の家族のような存在です。私は彼らが大好きで、彼らも私に対して同じように感じてくれていたように思います。そのため、シェアハウスに住んでいる間は一度もホームシックにかかりませんでした。



実際のシェアハウスの中の様子
(上:共用リビング、下:ベッドルーム)

交換留学生としての生活の中で一番辛かったことは、留学生生活を終えてシェアハウスを去ることでした。そこで出会った素晴らしいシェアメイトたちにさよならを言うのは、本当に辛く悲しかったです。彼らのおかげで私の日本での1年は素晴らしいものになりましたが、私が彼らに残せたのは、心を込めたハグと「ありがとう」という言葉だけでした。このシェアハウスで本当に楽しい時を過ごすことができました。

私が滞在したシェアハウスは、阪急千里線吹田駅から徒歩5分、JR吹田駅から徒歩10分のところにあります。自分個人のベッドルームはありますが、トイレ、浴室、キッチンやラウンジなどは他の住人(シェアメイト)とシェアしました。日本人の友達を作れたかったので、ベッドルーム以外の設備を他の人とシェアすることに抵抗はありませんでした。私のシェアハウスには20人ほど住んでいて、そのうち2人は外国人でした。シェアメイト達とは、ピクニックをしたり、スポーツをしたり、温泉に行ったり、映画を見に行ったりと、



四方山話 (1): 「知っている外国語は聞こえる」の巻

数年前に初めて台湾に行く前、少しでも中国語ができればと練習したフレーズが「トイレはどこですか？(洗手间在哪里<シーシュオジェザイナリ>?)」。しかし、トイレのマークは万国共通。多少の違いはあっても、マークを探して自分でトイレに行くことができたため、結局台湾では一度も使うことはありませんでした。ところが今年の夏に初めて中国人がこのフレーズを使っているのを耳にしたのです。その場所がイギリス・スコットランドのエジンバラ城。多くの中国人観光客が訪れていたお城の中で、このフレーズを耳にした時は、旧友に再会したような気持ちになりました。そして、自分の耳が数年前に練習したそのフレーズを拾ったことに少々感動を覚えました。たとえそれが慣れ親しんだ外国語でなくても、知っている言葉は自然に聞こえてくるということを身をもって体験しました。この「おっ！(英語では“Aha moment<なるほどと気付く瞬間>”と言います)」という体験をすると、それがさらなる言語学習へのモチベーションにつながります。そのためには、たくさんのフレーズを練習して覚えましょう！(M)



★ホストファミリーとホームビジットファミリーを随時募集しています。

興味をお持ちのファミリーは、詳細情報をお送りしますので、inoffice@ogu.ac.jpまでご連絡ください。

大阪学院大学／大阪学院大学短期大学部 国際センター

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目36番1号

TEL: 06-6381-8434 (代表)

FAX: 06-6381-8499

Email: inoffice@ogu.ac.jp

国際センターBLOG“Taking Off”もご覧ください。
<http://inoffice.blog102.fc2.com/>